

災害時のエコノミークラス症候群予防検診をサステナブルにするために

— 鹿児島県でのエコノミークラス症候群予防検診事業化の試み —

活動のストーリーライン

STEP1
構想期（能登以前）
メディカルカーの構想は石川能登半島地震より前から存在
過疎地医療への貢献を念頭に

STEP2
有事への急展開
榛沢先生のお声がけて急遽メディカルカーを作成・現地へ
→ 有事での有用性を確認

STEP3
平時運用の考案
「平時運用はどうか」企業向け検診を考案・実行
→ 平時での有用性を確認

STEP4
サステナブルモデルへ
有事 ⇄ 平時をつなぐサステナブルな検診体制として
モデルを確立

能登半島地震 実証データ

2024年1月21日～3月24日 毎週末10週間

1,548名

検査総数

136名

DVTリスク確認

48名

医院紹介

1名

肺塞栓 救命

核心事例：インフルエンザ隔離解除初日

Dダイマー2機種交差確認

→ 基準値上限超え

→ 緊急搬送 → 肺塞栓 → 救命

鹿児島 企業向け検診（下肢静脈エコー）

★ モデル事業第1号・企業検診初号

タクシー会社（22名） **血栓確認：2名**

仮説「ドライバーに血栓」→ 2名はどちらも事務員 → 「全企業が対象」の確信

車両備品取扱店（5名）
静脈拡張（9mm以上）：2名（40%） 静脈瘤：1名

業務用電気部品取扱店（5名）
静脈拡張（9mm以上）：0名 静脈瘤：1名 → 手術（ope）

ガラス取扱店（8名）
静脈拡張（9mm以上）：1名 静脈瘤：1名 → 後日痛みで紹介状

インテリア会社（13名）
静脈拡張（9mm以上）：1名

4社計 31名 静脈拡張（9mm以上）：4名（12.9%） 静脈瘤：3名（9.7%） 手術1名・紹介状1名

現地で見つけ、適切に繋ぐ。それをサステナブルにすることが、次の命を守る唯一の方法です。